

ニュース JAFIC EYE №180

11月のマイワシ・さば類・マアジの漁況について

1. 太平洋側のマイワシについて

○根室市花咲港：さけます代替棒受網漁業は10月中旬で終漁したが、たもすくい網漁は11月も続き28日で終漁した。11月の水揚量は10月を下回り、前年を大きく上回った(表1)。漁場は落石から花咲沖で道東の東側に形成され、花咲、厚岸、浜中、釧路の各港に水揚げされた。魚体は体重100～120gの大型魚が10～20%を占めた。価格は10月が前年比1.1倍、11月には2.3倍となった。大型魚の割合が増加したこと、サンマの水揚げが少なかったことにより、価格が高騰したと考えられる。

表1. 花咲港における10、11月のマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
10月	254.3	47.0	952.9	52.0	3.7	1.11
11月	39.3	42.0	286.3	97.0	7.3	2.31

(以降水揚量出典:おさかなひろば)

2. 太平洋側のさば類について

○八戸港：11月の水揚量は10月を上回り、前年を下回った(表2)。11月上中旬は八戸沖を中心に漁場が形成され、体長(尾叉長)は27cm前後主体で痩せたものが多く、南下群は見られなかった。11月下旬には漁場が八戸沖から金華山沖と小名浜沖に漁場が形成された。11月下旬に東北各港に水揚げされたものは体長28～30cm(2歳魚)主体で30cm以上(3歳魚、体重300～500g)が3～4割程度を占め、太り具合と脂の乗りが良好なものが水揚げされるようになった(図1)。11月下旬には漁場の中心が金華山沖に移動したこともあり、11月の八戸港における水

揚量は前年のように伸びなかった。

表2. 八戸港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
10月	122.0	211.0	3,278.0	78.0	26.9	0.37
11月	10,286.0	100.0	7,113.8	120.0	0.7	1.20

○石巻港：11月の水揚量は10月を上回り、前年を下回った(表3)。11月下旬から金華山沖を中心に漁場が形成されたため、石巻港の水揚量が増加した。マサバが大半でゴマサバの混じりは少なくなった。

表3. 石巻港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
10月	1,072.9	103.0	1,332.7	90.0	1.2	0.87
11月	6,055.4	100.0	4,885.5	116.0	0.8	1.16

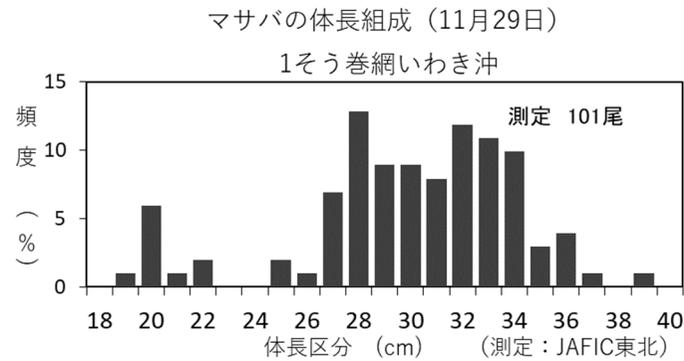


図1. 11月29日石巻港水揚のさば類体長組成

3. 日本海および東シナ海側のマサバについて

○境港：11月の水揚量は10月を上回るとともに、前年を上回った(表4)。価格は80円/kgであり、10月及び、前年を大きく下回った。コロナ禍により養殖生産が減少し、餌料の需要が減ったためと推測される。境港で水揚げされたマサバは体長24cm、体重160～200g主体であった(図2、3)。

表4. 境港におけるマサバの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
10月	584.0	76.0	246.0	102.0	0.4	1.34
11月	218.5	167.0	1,882.0	80.0	8.6	0.48

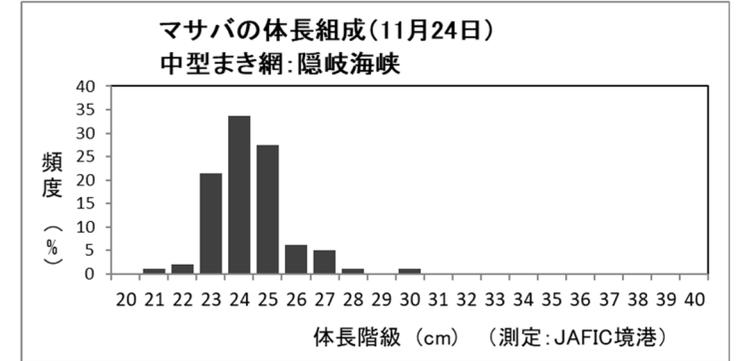


図2. 11月24日境港水揚のマサバ体長組成

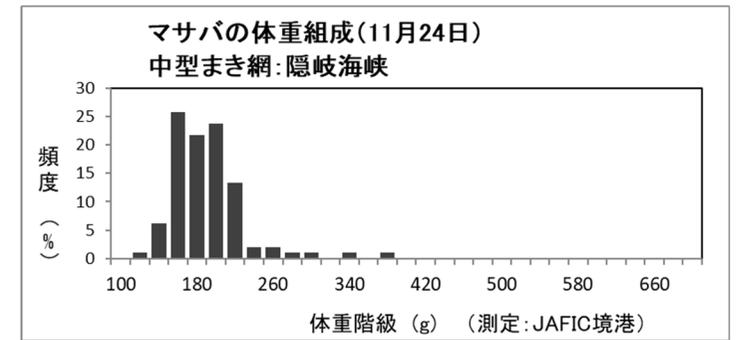


図3. 11月24日境港水揚げのマサバ体重組成

○松浦港：11月の水揚量は10月を上回り、前年を下回った(表5)。10月に引き続き九州西沖海域主体の操業で、11月下旬は対馬海域での操業もあった。水揚物の体長は27cm前後主体であり、30cm以上のサイズも混じった。体重は200g前後主体で300～400g、0歳魚主体と考えられる(図4、5)。対馬海域では体長33cm前後(1歳魚)、体重460～500g前後が主体であった。今後対馬海域では33cm前後の漁獲が続くと考えられる。

表 5. 松浦港におけるマサバの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
10月	1,141.9	166.0	1,213.0	218.0	1.1	1.31
11月	716.4	163.0	1,750.6	133.0	2.4	0.82

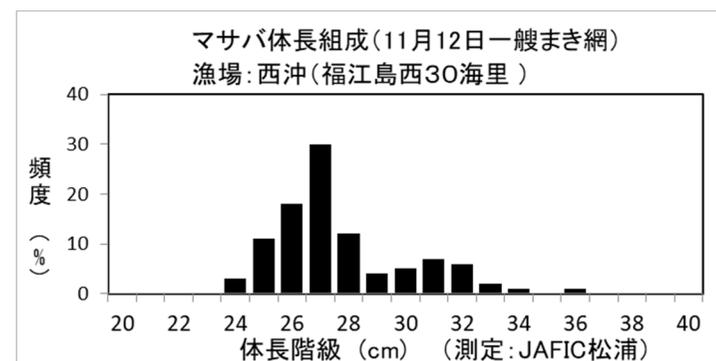


図 4. 11 月 12 日松浦港水揚のマサバ体長組成

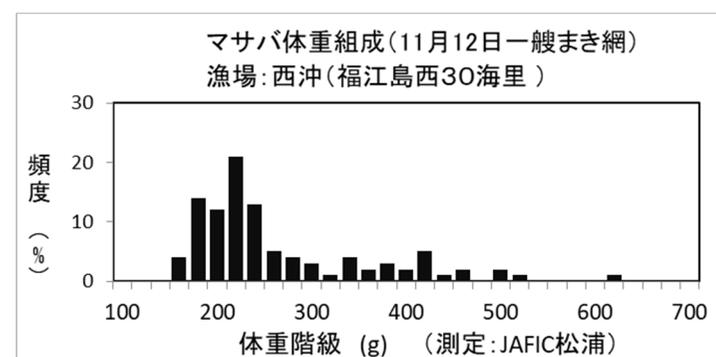


図 5. 11 月 12 日松浦港水揚のマサバ体重組成

4. 太平洋側のマアジについて

○銚子港：11月の水揚量は10月を上回るとともに、前年を上回った(表6)。二艘まき網での水揚げが主体だが、一艘まき網での水揚げもあった。

表 6. 銚子港におけるマアジの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
10月	55.6	225.0	247.5	236.0	4.5	1.05
11月	50.4	189.0	264.4	190.0	5.3	1.01

5. 日本海および東シナ海側のマアジについて

○松浦港：11月の水揚量は10月を上回り、前年を下回った(表7)。11月の漁場は九州西沖海域が主体であった。水揚物の体長(尾叉長)は22~24cm、140~180g前後主体であり(図10、11)、九州西沖海域へ1歳魚が来遊したと考えられる。今後は対馬海域へも1歳魚が来遊すると考えられる。

表 7. 松浦港におけるマアジの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
10月	961.1	238.0	1,025.1	247.0	1.1	1.04
11月	1,316.4	195.0	1,243.6	235.0	0.9	1.21

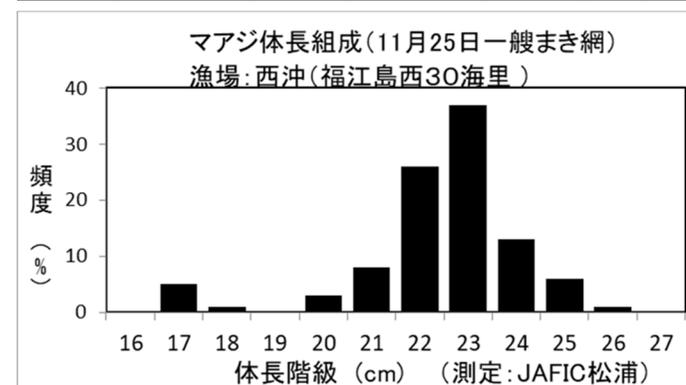


図 6. 11 月 25 日松浦港水揚のマアジ体長組成

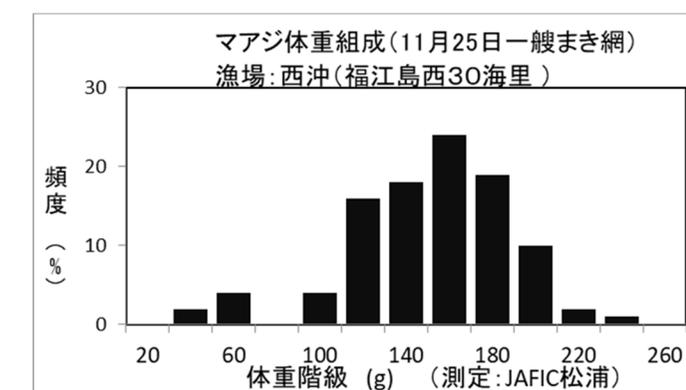


図 7. 11 月 25 日松浦港水揚のマアジ体長組成

6. まとめ

太平洋側のマイワシは、花咲沖で操業したたもすくい網漁業は花咲、落石、厚岸、釧路港へ水揚げした。水揚物に占める大型魚(体重100~120g)の割合は10~20%であった。サンマの水揚げが少なかったため価格が高騰した。

太平洋側のさば類については、11月上中旬は八戸沖に漁場が形成されたが、体長は27cm前後主体で太りが悪いものが多く、南下群は見られなかった。11月下旬には八戸沖、大船渡沖~金華山沖、小名浜沖に漁場が形成された。11月下旬に東北各港に水揚げされたものの体長は28~30cm主体で体重300~500gの南下群が3~4割程度を占め、太り具合、脂乗りが良好なものが水揚げされるようになった。一方、1網当たりの水揚量は依然として少なく、魚群のまとまりは悪かった。水温が低下する12月以降の南下群の来遊量増加に期待したい。

東シナ海では九州西沖海域を中心にマサバとマアジが漁獲された。マサバの水揚量は10月を上回るとともに、前年を上回った。体長27cm前後(0歳魚)が主体であった。今後は九州西沖海域と対馬海域で0~1歳魚が漁獲されと考えられる。マアジの水揚げ量は10月を上回るとともに、前年を下回った。体長22~24cm、体重140~180g前後(1歳魚)が主体であった。今後、冬にかけて対馬海域で1歳魚の漁獲が増加すると考えられる。

(水産情報部)